



山梨青年

YMCA NEWS



ニュー・クリエイションのための破壊者『青年』

—“100%のキリスト者”

2021山梨YMCA-YWCA合同祈祷会

奨励：洪 伊杓牧師(山梨英和大学宗教主任・准教授)

今年の世界YMCA/YWCA合同祈祷会のテーマは「こわれたものからの美しさ」です。仏教には「啐啄同時(そったくどうじ)」という言葉があります。鳥の雛が卵から生まれ出ようと内側から卵の殻をつついて音をたてた時(啐)、これに応えるようにお母さん鳥が外から殻を破る手助け(啄)をします。ひよことお母さん鳥の呼吸が合っこそ新しい生命が生まれることが「啐啄同時」です。キリスト教で言うとミケランジェロの「天地創造」の絵のように、神様とアダムの手がお互いに触れている姿と似ています。まことの救いとは神様の絶対的な力だけではなく、自ら救いの門をたたき、その門を開くために絶え間ない努力と闘いが必要であることを教えてくれています。

山梨の地に福音を初めて伝えた人々は、メソジスト教会の宣教師たちでした。このメソジスト教会の創始者ジョン・ウェスレーは、まさにこの「啐啄同時」の救いを教えた方です。彼はまことの救いに至るためには神様の恵みだけではなく、キリスト者の完全な姿に至るために死ぬ瞬間まで生涯努力しなければならないという「聖化」(Sanctification)の教えを説きました。この思想のもとに当時のイギリス聖公会の規則を壊して、炭鉱の鉱員や娼婦、貧しい労働者や女性、子供、老人のために野外で礼拝をささげ始めました。ウェスレーが実践した福音は伝統と規則というフレームを破壊することから始められたのです。既成の偏見を破壊し、新しい歴史を創造して行くウェスレーの姿に胸を打たれた日本のキリスト者には賀川豊彦や、内村鑑三がいます。

「キリスト者の完全な姿」の「完全」を数字で表すと「100%」という言葉になります。わたしたちの信仰状態もそういう数字で表現することができないでしょうか。「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。」(ヨハネ3:16) この御言葉はイエス・キリストを信じて、主と告白したすべての人が「永遠の命」を得て救われるという事実を語っています。私たちは神様の愛によってキリストを口で信じるだけでも100%の救いを受けることのできる存在なのです。しかし、同時に「御子を信じる者は裁かれない。信じない者は既に裁かれている。神の独り子の名を信じていないからである。光が世に来たのに、人々はその行いが悪いので、光よりも闇の方を好んだ。それが、もう裁きになっている。」(ヨハネ3:18-19)ともあります。すなわち私たちはキリストを信じてと言っていますが、「悪い行い」を一緒に行っているならば救いを受けるには及ばない存在なのです。人を妬んで、憎んで、裏では悪口を言って、比べて、差別します。また嘘をついて、人をだまし、怒って、言葉の暴力を振ります。この言葉はわたしたちが100%の救いを受けたとは言えないことを意味しているのです。

わたしたちが100%の救いを受けるというのはどんなことなのか。今日の本文はそれを「光の方に来ること」、「真理を行うこと」と語っています。それならば「光の方へ来て、真理を行うこと」は誰がしなけ

ればなりませんか?それは私たち自身です。イエス・キリストを信じて主と告白したわたしたちがしなければならぬ、神様がわたしたちに与えた宿題なのです。

「わたしを『主よ、主よ』と呼びながら、なぜわたしの言うことを行わないのか。」(ルカ6:46)というイエス様の質問に私たちは一日一日答えながら生きて行かなければなりません。口でイエス・キリストを主と告白して、その信仰で100%の救いを受けたと言っても「キリスト者の完全な姿」に至るために絶えず悩み、善と真理を行わなければならないのです。それも100%必要だというところが「啐啄同時」の考えと同じです。

小崎弘道(1856～1939)が「青年」と訳した「ヤングマン」は人間が作って来た偏見と誤解、伝統という名で行われた悪習などを破壊し、たゆまず新しい歴史を創造してきた、「卵を破壊した人々」です。1908年、朝鮮半島で初めて建てられたYMCA会館は、ソウルの伝統的な町のシステムを破壊して建立されました。彼らが破壊したかったのは人が支配し、差別する「身分制」でした。朝鮮YMCAの指導者・李商在先生は、老年になってもいつも自らを紹介する時に「青年・李商在です!」と語りました。YMCAの人々は、年齢や世代をも乗り越える人々、死ぬ瞬間までいつも「青年」でなければならないということに気づかされます。

私が日本人と結婚し、日本で生きているのは、民族や国家間の隔てを破壊し、新しい歴史を創造しようと決断した先達との出会いがあったからこそ可能でした。彼らが歩んだ道をこれからも継承すること、それが私たちに与えられている使命ではないでしょうか。

私たちは罪と闇でいっぱいになった卵の中にいる小さな鳥たちです。光の世界におられる神様は、わたしたちが「キリストの完全な姿」に至るためにすべての力を使い奮い起つ瞬間を待ちながら見守っていらっしゃいます。神様とわたしたちの手がミケランジェロの「天地創造」の絵のように光で繋がれる時、すなわち100%の神様と100%のキリスト者として再会するとき、その瞬間わたしたちの救いも完成されるということなのです。私たち一人一人の人生と働きの中で「新しい創造」、「ニュー・クリエイション」を生み出す神の似姿を証しながら、毎瞬間様々な隔てを乗り越える「真実」のみを語る存在になることを切に願います。そして神様と共に100%の完全なキリスト者になるために努力しましょう。それが神様が私たちに毎週与えられる宿題です。

卵を壊した人々
「町の道を破壊した朝鮮YMCA」(1908)



クリスマスって、
なんでプレゼントが
もらえるの？



子どもたちに「クリスマスって何の日？」と尋ねると、決まって、「サンタさんが来る日」「ツリーを飾る日」「ケーキを食べる日」「プレゼントをもらえる日」などと返ってきます。そして、わずかながら一部の子が、「イエス様の誕生日」と答えてくれます。そこで、私はいつも意地悪な質問をしてみます。プレゼントって、普通自分の誕生日にもらうんだよね。友だちの誕生日に君がプレゼントもらうことってあるかなあ？まして知らない人だったらなおさらだね。じゃあ、クリスマスはイエス様の誕生日なのに、なんで君がプレゼントもらうの？イエス様がもらえればいいんだよね。おかしいんじゃない？



イエス様は何のために生まれてきたのか、ということを大人が正

しく伝えることができないと、この疑問に答えることができません。「神は、その独り子をお与えになったほどに世を愛された。」(ヨハネ書3章16節)と聖書にあります。イエス様は実は神様からのプレゼントなのです。神様が人のかたちになって、この世に贈られ、私たち人類にどのように生きるべきかを示す生涯を送ったのです。その生き様は聖書に書いてある通りです。

世界中すべての人間のためにこの贈り物は届きました。でも、実際にはそのプレゼントを見ることができない。そこで、人々はそれぞれプレゼントを渡し合い、その品物をイエス様だと思って、クリスマスを祝うのです。おもちゃをもらった子も、人形をもらった子も、ゲームをもらった子も、みんなそれがイエス様だと思って喜ぶのです。

このことを伝えると、中にはこういう子がいるかもしれない。「じゃあ、ぼくはプレゼントもらえないな。だって、イエス様なんて信じていないから。」ところが、イエス様はこう言うのです。「あなたがたが私を選んだのではない。私があなたがたを選んだ。～互いに愛し合いなさい。」(ヨハネ書15章16節)と。イエス様はその子がイエス様のことを知らなくても、他の神様を信じていたとしても、同じように選んでくれて、愛して下さるのです。だから皆さん、クリスマスにはどんな人でもプレゼントをもらえるのです。

YMCA-YWCA合同祈禱会報告

福田 奈里子

世界中のYMCAとYWCAでは、毎年11月の第2週目の日曜日を起点とする1週間を合同祈禱週とし、世界の課題のために祈る時をもっており、ここ山梨でも甲府YWCAの方々とともに合同の祈禱会を行っています。

今年のテーマは「こわれたものからの美しさ」でした。11月14日(日)山梨英和大学宗教主任の洪伊杓牧師を講師にお招きし「ニュー・クリエイションのための破壊者『青年』」という題で奨励を頂きました。新しい関係性と新しい希望を作り出す青年運動として、YMCA-YWCAの歩みがこの地で必要とされる働きを見出し、地道に行っていくよう励まされた祈りの時でした。



大澤英二召天一周年記念講演会

和解の務めに生きる～YMCAの課題～ 福田奈里子



11月6日(土)、大澤英二元YMCA理事長の召天1周年の記念講演会が持たれ、氏が青山学院大学時代に親交の深かった関田寛雄牧師(日本基督教団神奈川教会巡回牧師)をお招きして、表題のご講演

をいただきました。アジアにおける日本の戦争責任の問題にキリスト者として真摯に向き合い牧会の道を歩んでおられる関田牧師と「YMCA運動は平和運動だ」という言葉を遺して帰天された大澤氏、お二人の生き様を通して「YMCAにおける『和解の務め』とは何か」の問いかけを、地上からも天からも与えられたひと時でした。



『レイパーソンに支えられた2大イベント』

実行委員 中田 純子

11月には山梨YMCAにとって2大イベントである、「チャリティーバザー」「チャリティーラン」が開催されました。新館オープンから2年を迎え、地域や会員の皆様と共にwithコロナを目指し実施することになったバザー。そして、プチリアルで開催となったチャリティーラン。コロナ渦の中、イベント開催への不安がありましたが行って実行委員会が進められました。ワイズメンズクラブの皆様の支えで、両日晴天の下実施することができました。

11月3日 第61回チャリティーバザー

露木総主事の呼びかけで甲府Y'sによるびっくり市では行列でした。甲府21Y'sによるお菓子袋の山は子どもたちに大人気！児童発達支援の子どもたちと一緒に育て収穫した大根や白菜を販売しました。



甲府ワイズメンズクラブ



甲府21ワイズメンズクラブ



富士五湖ワイズメンズクラブ

11月27日 第23回チャリティーラン

リモートレッスンで交流を深めてきた鹿児島Y。「ヤングマン」の曲に合わせて準備運動として披露しました！



理事長挨拶



主催者挨拶



選手宣誓



準備体操



幼児の部



小学生低学年の部



小学生高学年の部



成人の部



甲府21ワイズメンズクラブ



甲府ワイズメンズクラブ



山梨YMCAスタッフ

野外プログラム予定

○スキーキャンプ

日時：12月27日（月）～12月29日（水）

会場：富士見高原スキー場（長野県）

○デイスキー

日時：1月8日（土）2月5日（土）3月5日（土）

会場：富士見高原スキー場（長野県）

○Let's スケート

日時：1月4日（火）

会場：富士急ハイランド

○そり遊び！雪遊び！

日時：1月5日（水）

会場：富士見高原スキー場（長野県）

○ケイビング！

日時：1月6日（木）

会場：河口湖、カントリーレイクシステムズ

お問い合わせ・申込みは

TEL:055-235-8543 担当：露木魁人



Connect with our future ~SDGsへつながる一歩~

2 飢餓を
ゼロに



山梨YMCAでは10月16日の国連が定めた「世界食料デー」に伴い、1か月を通していくつかの活動を行いました。世界に広がる飢餓や食料問題について子どもたちと共に考え、「今の私たちにできること」をアクションに移しました。1つ目は「おにぎりアクション」です。これは世界の子どもに給食を届けるTABLE FOR TWOの活動の1つです。SNSや公式ホームページに、おにぎりにまつわる写真を投稿すると給食が寄附されるというものです。テーマを「自分を知ろう」から「世界を知ろう」へ少しずつ視野を広げ、世界にいる様々な環境の中で生きている人々について考えるプログラムを持ちました。そして、子どもたちの作るクリエイティブなおにぎりに、想いをのせ、世界に給食を届けることができました。2つ目は「フードバンク」です。山梨県内の食を必要とする家庭に食料を届ける山梨フードバンクの取り組みに参加しました。持っているものをシェアする、分け与えることを子どもたちと共に活動を通して実践する時となりました。家から持ってきた食材や、学童でもらったおやつをそのままボックスに入れる子どもたちの姿がみられました。



合計285アイテムが集まりました。集まった食品は、フードバンク山梨を通して山梨県内の食を必要とする家庭へ届けられます。



山梨YMCAでは、写真128枚を投稿することができました！おにぎりアクションのホームページには、山梨代表として山梨YMCAでの写真が掲載されています！

国際協力募金のお願い

山梨YMCAは、すべての人びとが国籍・民族・宗教の違いによらず、平和に生き生きと暮らせる社会の実現を願って、国際協力募金活動を行っています。この募金は、貧困や紛争の中にある子どもたちの生活や教育を支える活動の他、国内外の青少年への国際理解教育や緊急災害復興支援など、人類が協同で取り組むべき課題のために用いられます。YMCAの各プログラムに参加している会員や生徒、ボランティアの皆様には、毎年11月に国際協力募金のパンフレットと封筒をお渡ししています。ぜひご協力ください。



利用者募集中

高齢者 デイサービスセンター

旅行の思い出話に
花が咲きました♡

将棋がしたいなあ～
対戦相手募集中!!

リハビリの先生と
歩く練習をして
いるよ

うちのお風呂と
同じだから
ゆっくりリラックス

デイサービスはこんな方におすすめ

- ・日常動作で心配を感じる方
- ・家に閉じこもりがちの方
- ・お食事をつくるのが難しくなった方
- ・ひとりでの入浴が心配な方

※詳しくはお問い合わせください
いつでも見学できます

看護師と理学療法士が
一日常駐しています